

知 事 へ の 手 紙

長崎県知事 中村法道さま

あなたは、ここ数年来カジノを「ハウステンボス」へ誘致しようとし、県民の大切な税金を使い、その政策を進めてきました。来年度の予算にも1億2000万円が計上されています。そして現在の「IR 推進室」が課に格上げされ、人員の増員をすることが報道されました。

あなたは、IR（カジノ）誘致で経済浮揚、観光振興を図ると言っていますが、博打（ばくち）が県の経済政策なのでしょうか。

カジノは賭博であり、奈良時代以降、日本の長い歴史においても社会風紀を乱すものとして禁止されてきました。ギャンブル依存症の問題、社会環境の悪化、青少年への悪影響、反社会的勢力の介入などさまざまな問題が指摘をされていることはあなたもご承知のとおりです。

地方行政の役割・その任務は「住民の生活の安定と住民の福祉の向上」にあります。一部の人たちの利益の裏で、数多くの不幸な人たちを産むカジノを誘致することは地方自治の精神と真っ向から反します。行政の採るべき政策とは言えません。率直に申し上げて、あなたは経済振興のあり方をはき違えているということを指摘せざるを得ません。

私たちは県民のかけがえない税金をこのような政策に費消し、有能な人材をこのような業務に従事させることは行政執行上の背任的行為であり、浪費であると考え、看過することはできません。

経済政策は農林水産業や中小・零細企業など地元企業の応援、地場産業の育成などの健全な産業の振興策をすすめ、そのことによる雇用の場を創出することが肝要ではないでしょうか。

そして、長崎には豊かな自然と「世界遺産」に登録されたものを始め、数多くの歴史的な伝統文化遺産があるではありませんか。観光振興はこれらの資産を活かすことで充分可能であり、カジノの誘致は健全な観光地・長崎のイメージを損ね、寧ろ、観光振興や経済振興の妨げになるだけです。

私たちは、ふるさと長崎がカジノでけがされ、よごされ、みだされることを許すわけにはいきません。ハウステンボスへのカジノ誘致を直ちに中止するよう求めます。

2019年3月24日

「ストップ・カジノ！長崎県民ネットワーク」結成総会参加者一同